



須恵器の破片（五郎右衛門窯跡）

第5回 掛川考古展

奈良時代 —須恵器—

とき 平成21年11月7日㈯～15日㈰
ところ 掛川市立大須賀図書館2階ギャラリー

掛川市教育委員会

開発予定地内に遺跡はありませんか？ 工事の計画前に確認してください。

掛川市内には現在 702 遺跡が確認されていて、県内でいちばん遺跡が多い市だといわれています。遺跡（埋蔵文化財）は、私たちの”心のふるさと”であり、後世の人たちに伝えていく大切なものです。

そのため、「文化財保護法」により、遺跡がある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などを行う場合には、事前に文化庁へ届け出をすることが義務づけられています。

届け出をしないで工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査をすることになり完成が遅れてしまった・・・ということがないように、工事を計画する場合には、早めに教育委員会にご相談ください。

なお、教育委員会、図書館には、市内にある遺跡の位置を記した『遺跡地図』があります。静岡県教育委員会文化課のホームページでも遺跡地図は公開されています。工事を計画する前には必ず確認してください。

掛川市教育委員会 生涯教育課 文化財係

電話 (0537) 21-1158



文化財愛護シンボルマーク

文化財愛護シンボルマークは、文化財愛護運動を全国に推し進め
るための旗のとして、昭和41年（1966）5月に定められたもの
です。

このシンボルマークは、ひろげた両方の手のひらのバターンに
よって、日本建築の重要な要素である斗拱（ときょう=組みもの）
のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民
族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承してゆくという愛
護精神を象徴したものです。

奈良時代須恵器

元明天皇によって藤原京から平城京に遷都された 710 年から、桓武天皇によって平安京に都が遷される 794 年までの間を奈良時代と呼びます。

奈良時代の焼物は、大きく須恵器と土師器に分けられます。土師器は、縄文土器、弥生土器の系譜を引く赤褐色の素焼きの土器で、煮炊きに適していますが、液体を入れると染み出てしまうため、液体の貯蔵には向きな土器です。

須恵器は考古学上の用語で、ロクロにより成形して、窯で 1000° C 以上の還元状態で焼き上げた灰色を呈する焼物を指します。この須恵器は、5 世紀の初め頃に朝鮮半島から技術がもたらされて、日本で作られるようになったと考えられています。上師器に比べて須恵器は、強度と液体を貯蔵する点においてすぐれています。

奈良時代に、市内の山崎から西大渕にかけて須恵器と瓦等を焼く窯が造されました。地名から、これらの窯跡は清ヶ谷古窯群と呼ばれています。6 世紀の後半から末頃に造られた金ヶ谷窯跡群（西大渕）が最も古く、1 世紀ほど後に五郎右衛門窯が造られ、さらに、水ヶ谷奥窯が造されました。

この地に窯が造られた理由は、土器作りに適した粘土と燃料になる松が豊富にあつたこと、そして、南側に入り江があり、舟を使えば製品を一度にたくさん遠方まで運搬することが可能であったためと考えられています。

それでは、これらの窯跡をはじめとして、市内の須恵器がたくさん出土した遺跡を紹介します。

五郎右衛門窯跡（山崎）

袋井市との境に位置する標高約 100m の丘陵の頂上付近にあった窯跡で、砂利採取に伴い発見されました。窯跡 1 基が確認されましたが、全体の規模等は把握されていません。窯跡からは、碗の蓋（坏蓋）、高台付きの碗（有台坏身）、碗（坏身）などの須恵器と瓦、鞍を付けた馬を象った焼物が発見されています。瓦は寺院に供給するため、馬を象った焼物は役所か集落に供給するためのものと考えられます。

窯の操業時期は、8 世紀前半と推定されています。

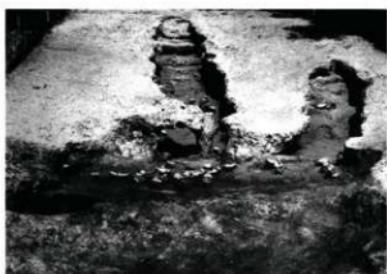
みすが やぶく 水ヶ谷窯跡（山崎）

遺跡の詳細分布調査の一環として、2基の窯跡が発掘調査されました。

窯跡からは、坏蓋、皿、鉢、壺、壺ね鉢などの食器の他に、足（脚）の付く円形の硯（円面硯）、獸の足（獸足）を象った足（脚）が付く壺の破片等が出土しました。この円面硯や獸足（脚）付きの壺等は、役所や寺院で使用されるものでした。また、馬を象った焼物、人形といった祭事や祓いに使用されるものも焼かれていました。

ここで焼かれた製品は、役所から集落まで幅広く供給されていたと考えられます。

窯の操業時期は、奈良時代の中頃と推定されています。



窯跡の様子



出土した須恵器

ほらがわ 原川遺跡（領家）

国道1号線掛川バイパス建設工事に先立ち、発掘調査が実施されました。

原川遺跡からは、弥生時代から近世の「間の宿」に関する遺構・遺物まで多種多様なものが発見されています。このうち、奈良時代の遺構は、豎穴住居跡1軒、掘立柱建物跡14棟、溝跡等が確認されています。豎穴住居跡は、4.4m×4.1mのほぼ正方形で、須恵器坏蓋・坏身・広口壺、土師器坏・壺等が発見されています。

このほか、奈良時代の遺物には、円面硯、字が書かれた土器（墨書き土器）等があり、奈良時代の役所の跡と考えられています。



堅穴住居跡の様子



堅穴住居跡出土の須恵器

おおいけ 大池遺跡（長谷）

都市計画道路の建設工事に先立ち、発掘調査が実施されました。

調査では、建物の柱穴や溝跡等とともに、弥生時代、奈良時代、鎌倉時代から戦国時代の遺物が発見されています。

奈良時代の遺構は明確ではありませんが、壺蓋、有台壺身、壺身、有台皿、高盤、壺、甕の須恵器があります。高盤は、皿に長い脚を付けた形をしていて、日常の食器ではなく祭事用とか特別の時に使用された器と考えられています。

東海道に沿っていることから、何らかの公的な施設ではないかと推定されます。



調査地の様子



出土した須恵器

ろくの つば 六ノ坪遺跡（秋葉路）

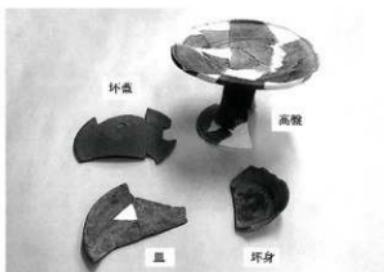
住宅団地の造成に先立ち、発掘調査が行われました。調査では、弥生時代から平安時代までの堅穴住居跡 90 軒、奈良時代から平安時代に位置づけられる据立柱建物跡

37棟、古墳4基等が発見されました。出土遺物には、縄文土器、弥生土器、古墳時代から平安時代までの土師器、古墳時代から奈良時代までの須恵器、二彩・三彩という施釉陶器、遠江国分寺と同じ文様の瓦等があり、須恵器には、壺蓋、有台壺身、壺身、皿、高盤、壺、甕があります。

掘立柱建物跡の配置は、コの字状を呈するものと、周囲を溝で囲んだ中に左右対称に配置されるものがあります。コの字状を呈するものは、役所的な配置と考えられ、左右対称を呈するものは寺院の可能性があります。



調査地の様子



出土した須恵器

八坂別所遺跡・頭地遺跡・牛岡遺跡（八坂）

八坂別所遺跡と頭地遺跡は、事任八幡宮と国道1号線八坂インターチェンジの間に広がる遺跡で、県営農地総合開発整備事業に伴い調査されました。牛岡遺跡は、「道の駅掛川」の建設工事に伴い調査された遺跡です。

八坂別所遺跡からは、道路状遺構、溝跡、柱穴列等とともに、須恵器、円面鏡、須恵器を転用した硯（転用硯）、墨書き器等が発見されています。頭地遺跡からは、掘立柱建物跡、溝跡等とともに、須恵器、円面鏡、転用硯等が発見されています。牛岡遺跡では、柱穴等とともに、壺蓋、有台壺身、壺身、皿等の須恵器が発見されました。

三つの遺跡に分かれていますが、東海道の難所佐夜の中山峠を控えた場所に設置された広大な公的施設であったと考えられます。



道路状遺構（八坂別所遺跡）



出土した須恵器（牛岡遺跡）

七社神社遺跡（大坂）

県営農免農道整備に先立ち、平成 20 年度に調査されました。川・溝跡、掘立柱建物

跡等の遺構とともに、古墳時代から平安時代の土器等が発見されています。

奈良時代から平安時代の土器は、川の近くから意図的に壊された状態で、集中して発見されたことから、川に関する祭事を行った時のものと考えられます。

出土した須恵器の中に転用硯、墨書き土器が存在することから、近くに寺院か役所が存在した可能性があります。硯・墨書き土器は、市内の東海道沿いの役所跡等から発見されているだけで、旧城飼郡からの発見は初めてです。

参考・引用文献

『清ヶ谷古窯跡群白山窯跡－1978 年度の発掘調査－』 大須賀町教育委員会 1979

『清ヶ谷古窯跡群水ヶ谷奥窯跡－1979 年度の発掘調査－』 大須賀町教育委員会 1980

『原川遺跡III 平成元年度袋井バイパス（掛川地区）埋蔵文化財発掘調査報告書』

静岡県埋蔵文化財調査研究所 1990

『八坂別所遺跡・頭地遺跡・栗下遺跡・メノト遺跡 県営農地総合開発整備事業東山口地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 掛川市教育委員会 2006

『八坂別所遺跡 II・III 牛岡遺跡 栗下遺跡II 県営農免農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 掛川市教育委員会 2007



年 表

時代	西暦(年)	全国のできごと	掛川の遺跡のうごき
奈良時代	710	元明天皇、都を藤原京から平城京に遷す	五郎右衛門窯・原川・大池・八坂別所・頭地・牛岡・七社神社遺跡が盛期を迎える
	724	聖武天皇即位	
	729	長屋王、謀反の罪で自殺に追い込まれる	
	741	聖武天皇による国分寺・国分尼寺建立の詔	
	752	東大寺大仏開眼供養	
	754	鑑真和上來日	この頃、水ヶ谷奥窯が操業 この頃、六ノ坪遺跡が盛期を迎える
	781	桓武天皇即位	
	784	桓武天皇、長岡京に都を遷す	この頃、八坂別所・頭地・牛岡遺跡が終焉を迎える
	794	桓武天皇、平安京に都を遷す	